



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：郵便番号016-0102 秋田県能代市一本木80-2 佐藤幸雄方 電話0185-58-3089

会設立からの歩み

今号には今年3月から8月までの活動を記録しました。見出し番号は創刊号からの通し番号です。

59 松くい虫予防剤樹幹注入

3月2日実施。松枯れを予防するための薬剤樹幹注入は平成15年3月に初めて実施し今年で3回目。今回の対象木は、松原内で一番太いとされるクロマツと長年風を受けて幹が斜めになった木のあわせて4本。これらは15年3月に薬剤を注入した木だが、樹幹内の薬剤の効果が3年とされているため、今回再び「グリーンガード・エイト」の注入作業をおこなった。1本のクロマツに220ミリリットルのアンブル約10本を注入し、合わせて45本、約15万円の経費を要した。



3月2日実施。松枯れを予防するための薬剤樹幹注入は平成15年3月に初めて実施し今年で3回目。今回の対象木は、松原内で一番太いとされるクロマツと長年風を受けて幹が斜めになった木のあわせて4本。これらは15年3月に薬剤を注入した木だが、樹幹内の薬剤の効果が3年とされているため、今回再び「グリーンガード・エイト」の注入作業をおこなった。1本のクロマツに220ミリリットルのアンブル約10本を注入し、合わせて45本、約15万円の経費を要した。

60 平成18年度総会開催

4月12日午後1時30分から今年度の総会が能代市中央公民館で開催された。今回は開会に先立って隣室でビデオ上映をおこなった。ビデオは「佐賀発 白砂青松が消えてゆく」。会員だけでなく別の会合に来ていた人たちもビデオを見て広葉樹の影響など松林保全の問題点を感じていた。

総会には米代西部森林管理署、秋田県山本地域振興局、能代市産業振興部から来賓が出席、それぞれあいさつの中で松くい虫対策、健康づくりのみち事業、豪雪による被害木の処理、民有林の松くい虫増加等について話された。

会務報告では昨年度の「正副会長の会」の回数が14回



に及んだこと、観察会及びガイドの件数が千葉県からの修学旅行を含め19回あったことも報告された。

今年度の事業計画では、「啓蒙・啓発を重視した活動を行う。常時活動として風の松原林内のパトロール、クリーンアップを行う。趣旨の合致する他団体との連携・協力を努める」方針を確認し、昨年度初めて実施したニセアカシアの芽欠き作業を「ニセアカシア萌芽撃退作戦」と名付け、5月、8月、10月の3回実施するなどの計画を承認した。

61 風の松原バードウォッチング

4月29日朝6時～7時半。今年度最初の活動となるバードウォッチングが行われた。今回は移動時間を少なくして小鳥の声や姿を探すことに



ポイントをおいて実施。講師の渡辺進さん(会員)から説明を受けた後に2グループに分かれて出発。池のほとりでのまよめ会では22種類の姿または鳴き声を聞いたことが報告された。その直後にオオルリ(写真)が現れて長時間私たちを楽しませてくれた。参加者数は27名。昨年に比べて子どもたちの姿が目立った。



62 風の松原を守る市民ボランティア大会

風の松原に守られる人々の会も主催団体の一つになっている「風の松原を守る市民ボランティア大会」が5月7日に開催された。

今年の大会には900人余が参加したほかトラック18台、ローダー3台が出動した。本会からは7名が作業リーダーとして参加、他の会員は個人で参加申込みをして参加。当日開会式が行われた陸上競技場本部脇には「風の松原に守られる人々の会」の幟(のぼり)も登場し、会員の多くがその回りに集まっていた。

開会式では清水会長が「参加した方が参加できなかった市民にも声を掛け、自分たちの松原を未来永劫守ろう

と呼び掛けてほしい」と話したほか県知事、能代市長などがあいさつに立ち「(クロマツ林は)過去からの贈り物



であり、未来への預かりもの」などとあいさつ。約2時間の活動で10トントラック4台分、2トントラック14台分の枝が処理された。

63 ニセアカシア萌芽撃退作戦

昨年初めて実施したニセアカシアの芽欠き作業を今年は「ニセアカシア萌芽撃退作戦」と名付けて3回実施することにした。その1回目が6月23日9:30~11:30まで健康づくりのみちNo.1~No.5までの区域で実施された。

参加者数は、風の松原に守られる人々の会13名、まつぼっくりの会5名、森林管理署1名、一般参加2名、報道陣1名。守られる人々の会の幟(のぼり)がボランティア大会の時とは異なり、新しいものになっていた。

参加者の多くは昨年3度も芽欠きをした場所だから今年は少なくて当然と楽観していた。その通りで、新聞社の取材に好適なニセアカシアの繁茂した場所は中々見つからなかった。(下の写真は開始前の諸注意)



64 ガイド養成講座に全面的に協力

近年、観光で風の松原を訪れる人が増えている。風の松原に守られる人々の会では、風の松原の景観の素晴らしさを次世代に引き継ぐために、松原に関心を持つ人が増えることを願い、これまでも小中学校の観察会には積極的に協力してきた。ところがガイド依頼件数が増加すれば、要望に応じきれなくなる。そこで能代市自身がガイド養成に取り組むよう働きかけてきた。今年2月から能代市観光振興室の「風の松原ガイド養成講座」受講者募集に伴い、会員個人が受講を申し込み、講師引き受けなど全面的に協力している。

講座は第1回が2月24日、第2回目からは4月以降の第1

・第3水曜日を基本として10月まで11回実施するほか、救急救命講座や能代市主催のプレスツアー、小中学校の観察会などにも参加して風の松原ガイドボランティアの増加を願っている。受講者は34名、うち本会の会員は12名。

第4回講座では「松を植えた人々~松を植えた実績と苦難の歴史を学習する~」というタイトルで浅野ミヤさんが講師となり元能代営



林署職員の袴田与一氏を特別講師として実施。講座内容はインターネットホームページ「風の松原案内」が詳しく記録している。(写真はクロマツの年輪を拓本にして説明する浅野ミヤさん)

65 樹種名札取り付け作業



7月19日に「健康づくりのみち」の今年度新設されたウッドチップ歩道に樹種名札を取り付ける作業を実施。

この日は会員6名と「まつぼっくりの会」会員2名がコナラ、ハリギリ、コシアブラ、ホオノキなど25種類35枚の樹種名札をシュロ縄で幹に固定していた。今回は細い幹には縦長の名札を取り付ける工夫をした。

66 ニセアカシア萌芽撃退作戦(2回目)

8月5日(土)早朝6時~7時半まで今年度2回目のニセアカシア萌芽撃退作戦を実施した。2年目、通算5回目の芽欠きとあって、芽欠きの効果が現れてきたことと一般の人たちが散策の途中にニセアカシアの萌芽を引き抜いてゆくことが増えてきたことで健康づくりのみちNo.1~No.5には萌芽がほとんど見られなかった。そこで今回は観光客が入る道となる大森橋から休養広場に向かう道路北側にある若齢林を集中的に実施した。参加者は会員16名、一般3名だった。

67 「風の松原近代のあゆみ」パネル展

会の事業ではないが、会員の浅野ミヤさんの「風の松原近代のあゆみ」パネル展が能代市子ども館で7月24日から8月23日まで公開された。



68 「風の松原案内」ホームページ

これも会の事業ではないが、会員の小林勝平氏が制作しているインターネットホームページ。アドレスは <http://www.shirakami.or.jp/~pinewood/> 「風の松原案内」と検索すれば表示することができる。